

■字のない葉書 (p. 32～35)

◆読解◆

ステップ1

- 1 ① イ ② ア ③ ウ

- 2 ① 自分宛ての宛名を書いた

- ② 字のない

ステップ2

【前半】

- 1 こそばゆいような晴れがましいような気分

- 2 ① 暴君

- ② 威厳と愛情にあふれた非の打ちどころのない父親

【後半】

- 1 ① まだ字が書けなかった

- ② 元気 ③ マル ④ ポスト

- 2 イ

- 3 ① 例 帰ってくる妹を少しでも喜ばせようという筆者と弟の気持ち

を理解していたから。

ステップ3

- 1 ① 例 妹の帰りを待ち遠しく思い、また無事に帰ってくるかど

うか心配する気持ち。

- ② 例 少しでも早く妹の無事を確かめたいという気持ち。

- ③ 例 妹に会えてうれしい気持ちと、苦勞をさせて申し訳ない

という気持ち。

2

例 私は、筆者の父は、照れ屋だが、家族を深く愛している人物だと思う。ふだんは「暴君」だったそうだが、筆者への手紙や、疎開した妹が帰ってきたとき、はだして飛び出して行って、妹を抱いて泣いた姿から、娘たちを愛していることがよくわかるからだ。

随筆を読んで視点を広げよう



随筆には、筆者が実際に見聞きしたことや体験したこと、それに対する筆者の思いなどが書かれているよ。

さまざまな随筆を読んで、いろいろな人の考え方や感じ方にふれてみよう。そして、自分だったらどう思うだろうか？ と考えてみよう。筆者と自分の考え方や感じ方が、まったく違う場合もあるかもしれないね。自分と違う感覚をもつ人の考えを読むことで、「こういう考え方もあるのか」と視点を広げることがができるよ。

また、「字のない葉書」のように古い時代に書かれた随筆からは、当時の生活ぶりや、実際にその時代を生きた人の考えを知ることができ、過去の歴史について理解が深まるよ。